

水 泥 新 聞

第三七号
2018 年（平成 30 年）1 月 5 日



編集

フジクリーン工業株式会社

〒四六四・八六二三

愛知県名古屋市中千種区今池

四丁目 1 番 4 号

TEL

〇五・七三三・〇三二五

2号連続特集

設立60年を迎えた フジクリーンの 歴史を紐解く



里川ホタル

コンクリート製単独浄化槽の製造、日本初の量産型小型合併浄化槽の発売と変遷をたどった20世紀。今号では、2001年から今日までの軌跡を辿る。

2002年～ 日本初の窒素・リン 除去型家庭用小型 合併浄化槽を発売

これまでの浄化槽はBODの値を下げるため、有機物は分解していたが、窒素やリンの除去率は低いままだった。しかし閉鎖性水域では、窒素やリンが栄養源となり、アオコや赤潮を引き起こすことは明らか。さらに水質改善を進めるため、研究に全力を注いだ結果、困難とされていた窒素とリンを除去する家庭用小型合併浄化槽、CRX型が完成した。

当時を知る社員の声

当時、リンを除去する装置は家庭用には不向きと言われていました。しかし、鉄電極を担体流動生物ろ過槽に設置することで実現。当時は実大実験槽での24時間の調査が必要だったため、深夜から朝は睡眠と戦いながら測定、採水をし、研究所まで運んだことが今でも思い出されます。



▲第一開発部
課長
水野真一

当時を知る社員の声

作成当時は、会社の使命や価値観を根底から再確認する作業の連続でした。発表から10年が経ち、各々に気に入ったセンテンスがあるのではないのでしょうか。押し付けではない「社員の寄り添う理念」として、これからもあり続けて欲しいと願っています。



▲常務取締役
安田直人
(当時経営企画部長、
人事部長兼任)

2008年～ 社員のための理念 「フジクリーンの 目指すもの」を発表

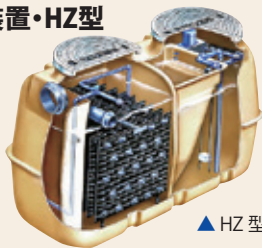
社員が450名を超えたフジクリーンは、長期経営計画を立てる上で会社の目標や方針を示す「目指すもの」を作成。一節の「子供たちが水まみれ泥まみれになって遊ぶことのできる、生物にあふれた小川や水辺を回復する」に、会社としての使命と社員の働く意義ややりがいを示した。「目指すもの」は、今日も社員の拠り所として存在する。

コラム

未来につながる挑戦

約5年間発売された 家庭用水リサイクル装置・HZ型

2003年から発売された、家庭用水リサイクル装置・HZ型。これは、風呂排水や洗濯排水、洗面排水から臭いや泡、不快な濁りなどを取り除き、トイレ洗浄水としてリサイクルする画期的な装置だった。しかし、節水トイレの普及、温水便座&便器一体型の普及などにより、わずか5年ほどで発売中止に。



▲HZ型

開発者の声

今日の日本は、集中豪雨の多発により節水の意識が薄れつつありますが、アジアやアフリカを中心に世界には水不足で苦しむ人々が大勢いるのが現実。今後はHZ型で培った技術を生かして、少しでも世界中の人々のお役に立ちたいと考えています。



▲第一開発部
課長代理
土井幸夫

2013年～

米国や欧州など 本格的に 海外進出を開始

日本国内の浄化槽市場において、No.1のシェアをほこるフジクリーン。その技術や製品を世界に売り込むべく、国民の環境への意識が高いオーストラリアに2008年、現地法人を設立。最初の5年間は受け入れられなかったが、コンパクトで軽量という長所をPRし、少しずつ販売数を伸ばしている。

その後、2013年にはアメリカ、2017年にはドイツに営業拠点を設置し、海外での本格的な営業活動を開始。現在は先進国だけでなく、東南アジアや中国を中心とする近隣諸国に

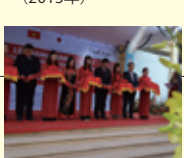
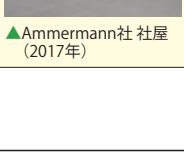
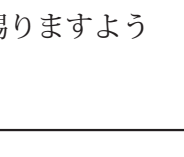
も進出し、日本での経験や実績を生かしながら現地企業と共に事業を拡大している。浄化槽の機能や製造工程、維持管理の理解を深めてもらうことに重点をおき、活動を続けている。

今後は「美しい水を守る」という会社理念に基づき、浄化槽で培った水処理技術を活用し、国内外に安らげる水辺が増えるよう、全社員でとり組みたいと考えている。



▲ドイツの展示会、IFAT2016に出展した様子

フジクリーンが新たな一歩を踏み出した21世紀 2001年～現在の歩み

年	フジクリーンの出来事	社会の出来事
2002年 (平成14年)	●日本初の窒素とリンを同時除去できる家庭用小型浄化槽、CRX型を開発・発売。 ●自社開発の再生材製造機で、嫌気ろ材の担体を製造開始。 	●ソルトレイクシティ冬季オリンピックが開幕。 ●小柴昌俊さんがノーベル物理学賞受賞。 ●田中耕一さんがノーベル化学賞受賞。
2004年 (平成16年)	●CRX型が「第31回環境賞・優秀賞と環境大臣賞」を同時受賞。 	●新潟県中越地震発生。 ●アテネオリンピックで日本が歴代最多のメダル37個獲得。
2006年 (平成18年)	●メルボルンで開催された環境技術展へ出展。 	●国土交通省から下水道クイックプロジェクトが打ち出される。*
2008年 (平成20年)	●「フジクリーンが目指すもの」発表。 ●水循環の健全化に大きく貢献した環境啓発活動が評価され、「第10回日本水大賞(経済産業大臣賞)」を受賞。 ●フジクリーンオーストラリアを設立。 ●維持管理ネットワークを発足。 	●タクシーが全面禁煙化。 ●小林誠さん・益川敏英さん・南部陽一郎さんの3名がノーベル物理学賞受賞。
2011年 (平成23年)	●単独から合併への転換を促す、高度処理浄化槽CF型が「愛知環境賞 銀賞」を受賞。 ●フジクリーンと各社の浄化槽が、東日本大震災の仮設住宅用として採用される。 	●任天堂初の3D携帯ゲーム機「ニンテンドー3DS」発売。 ●FIFA女子ワールドカップドイツ大会で、サッカー日本女子代表が初優勝。国民栄誉賞を受賞。 ●地上デジタルテレビ放送に完全移行。
2013年 (平成25年)	●フジクリーンUSAを設立。 ●北海道苫前町で社会実験中であった、工場製作型極小規模処理施設(後にフジクリーンFGU型として製品化)が下水道クイックプロジェクトの一手法として一般化。 	●富士山が世界文化遺産に登録される。 ●JR九州が豪華寝台列車「なつ星in九州」の運行開始。 ●伊勢神宮で式年遷宮が行われる。
2014年 (平成26年)	●経済産業省 新興国市場開拓事業として、ベトナムハノイ市立幼稚園に浄化槽設置。 	●国土交通省、環境省、農林水産省は3省合同で「都道府県構想策定マニュアル」を発表。* ●消費税が5%から8%に増税。
2015年 (平成27年)	●単独浄化槽並みのスリムボディで合併浄化槽への転換をスムーズに行えるCA型を開発・発売。 ●フィリピンAPECで、浄化槽の優位性についてプレゼンテーションを実施。 	●第153回芥川賞を又吉直樹さんが受賞。 ●マイナンバー制度がスタート。 ●国産初のジェット旅客機、MRJが初飛行成功。
2016年 (平成28年)	●下水道展に初出展し、汚水処理施設の未普及地域早期解消を後押しする、低コスト・短納期可能な技術を紹介。 ●ランニングコストを低減し、モデルチェンジした小型浄化槽、CRX II型を開発・発売。 ●UniMB開発・発売。自社・他社問わず、あらゆる自動逆洗浄化槽のタイマー設定を搭載した画期的なプロワとして注目をあつめる。 ●フジクリーンと各社の浄化槽が、熊本地震の仮設住宅用として採用される。 	●東京都知事選で小池百合子さんが当選し、女性初の都知事に。 ●オバマ米大統領が広島訪問。
2017年 (平成29年)	●ドイツAmmermann社を子会社化。 ●愛知県みよし市 三好工場 電磁式プロワの塗装設備を一新。電磁式プロワ塗装から製造の一連を内製化。 	●アメリカ大統領選で、トランプ氏が当選、大統領就任。 ●将棋の中学生棋士、藤井4段が29連勝、最多連勝記録を30年ぶりに更新。

★・・・浄化槽にかかわる出来事



2018年 新年のお慶びを申し上げます

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。
本年も変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社
http://www.fujiclean.co.jp/